

各数値目標の考え方（計画書より抜粋）

(1) 1人当たりのごみ排出量

【数値目標】 平成27年度 750g/人・日 ← 平成16年度 935g/人・日

◇計算式 1人1日当たりごみ排出量 (g/人・日) =

$$\frac{\text{ごみ総排出量 (t)} / \text{総人口 (人)} / 365 \text{ or } 366 \text{ (日)} \times 10^6 \text{ (g/t)}}{}$$

[16年度]	15,597	45,685	365
[27年度]	11,273	41,181	366

※平成27年度の総人口は、滝川市独自推計による。

◆数値目標設定の考え方◆

平成15年度より新たなごみの分別収集（リサイクルの稼働）に変更したことで大幅にごみ量が減少した。変更直後の平成15年度実績に比べて16年度はやや増加したが、変更前の駆け込み処理に伴う減少などを差し引くと、16年度にほぼ安定水準に至ったものと想定される。今後は環境基本計画の施策効果や市民努力を見込み、16年度実績から約2割削減する目標を設定した。

(2) リサイクル率

【数値目標】 平成27年度 30.0% ← 平成16年度 21.7%

◇計算式 リサイクル率 (%) =

$$\frac{\text{(直接資源化量} + \text{中間処理後再生利用量} + \text{集団回収量})}{\text{(ごみの総処理量} + \text{集団回収量)}} \times 100$$

[16年度]	0	1,241	2,740	15,597	2,740
[27年度]	0	1,691	2,466	11,273	2,466

※1 約1割減少する推計人口に基づき、資源回収量も約1割減少すると見込んだ。

※2 16年度は「ごみの総処理量」の約8%が「中間処理後再生利用量」となっており、27年度までにこの割合を約15%にすることとして数値を設定した。

◆数値目標設定の考え方◆

平成15年度より新たなごみの分別収集（リサイクルの稼働）に変更したことで大幅にリサイクル率が上昇した。平成15年度は、堆肥などの資源物が発生する生ごみメタン発酵施設の稼働が8月以降（リサイクルへのごみ搬入は4月から）であったのに対し、16年度は年間通じて稼働していることからさらにリサイクル率が上昇した。今後は、ごみ量全体の削減や資源物の分別徹底、拠点回収の充実などにより30.0%のリサイクル率を目指すものとした。

なお、計算式の定義上、可燃ごみの燃焼に伴う熱回収及び生ごみメタン発酵により発生するバイオガスを資源量として計上していない。

(3) バイオマス資源の利用率

【数値目標】 ※18年度中に策定予定のバイオマスタウン構想において数値目標を設定する。

◆数値目標設定の考え方◆

※ バイオマスタウン構想の策定にあたっては、廃棄物系バイオマスを90%以上利用するか、または未利用系バイオマスを40%以上利用することが条件となる。廃棄物系バイオマスのうち、生ごみについてはメタン発酵施設の稼働により、利活用が進んでいる。

(4) 省エネモニターのCO₂削減量

【数値目標】 前年比で平均6%削減

◇方 法

概ね30～50人の省エネモニターを募集し、電気・ガス・水道・灯油・自動車燃料の消費量を記載のうえCO₂排出量を算出する。〇月～〇月など時期限定であってもよいが、複数年にわたって記載しその削減量を把握する。記載にあたっては、数値に加えて削減努力の内容につ

いて報告してもらい、効果的な方法については周知に努めるものとする。

◆数値目標設定の考え方◆

国が推進する「チームマイナス6%」にちなんで、平均6%の削減目標とする。

(5) 農業体験年間参加者数

■数値目標■ 平成27年度 1,500人/年 ← (平成17年度 1,193人/年)

◆数値目標設定の考え方◆

市内小・中学校の農業体験授業や修学旅行生、都市住民等の受入れにより、農業・農村環境についての理解を深める。受入れ農家の協力を得るなかで、段階的に体験機会を拡大する。

年 度	参加者数	年 度	参加者数	年 度	参加者数
13年度	—	18年度	1,350人	23年度	1,450人
14年度	—	19年度	1,350人	24年度	1,450人
15年度	—	20年度	1,400人	25年度	1,450人
16年度	—	21年度	1,400人	26年度	1,500人
17年度	1,193人	22年度	1,400人	27年度	1,500人

(6) 「石狩川ルネサンスの森市民植樹祭」植樹本数

■数値目標■ 平成18～27年度累計 7,700本 ← (平成17年度単年度 500本)

◆数値目標設定の考え方◆

CO₂削減に寄与し市民共有の財産でもある森林整備を市民参加により拡大する。

年 度	植樹本数	年 度	植樹本数	年 度	植樹本数
13年度	2,263本	18年度	2,000本	23年度	600本
14年度	820本	19年度	500本	24年度	700本
15年度	400本	20年度	500本	25年度	700本
16年度	500本	21年度	500本	26年度	800本
17年度	500本	22年度	600本	27年度	800本

※1 18年度は北海道植樹祭

※2 23年度以降の植樹場所は未定

(7) 環境学習リーダーの人数

■数値目標■ 平成18～27年度累計 100人

◇方 法

シリーズ講座等を開催し、一定回数以上の受講者を環境学習リーダーとして認定する。環境学習リーダーは地域・団体等において講師を務めるなど、環境にやさしいまちづくり推進の役割を果たす。

◆数値目標設定の考え方◆

年間10人程度の環境学習リーダーを育成するものとし、10年間で累計100人を目標にする。

(8) 環境市民大会の参加者数

■数値目標■ 100人/回

◇方 法

「環境基本計画」進行管理のため年間サイクルに位置づけた(仮称)環境市民大会を年1回開催する。市民から環境に関する意見を聴く場として、各種催しと組み合わせる等工夫して参加者の拡大を図る。

◆数値目標設定の考え方◆

1回あたり100人以上の参加を見込む。